

プレイリーダーのいる子どもの遊び場に関する研究 (第2報)

—都心型プレイスクールと郊外型プレイスクールの比較—

○梶木典子* 瀬渡章子** 田中智子** 中澤久美子*³

(*奈良女大・院, **奈良女大, *³(株)INAX)

【目的】立地(都心型と郊外型)の違いによるプレイリーダーのいる子どもの遊び場の利用実態, 利用者意識を明らかにし, 現在の子どもや親から求められている遊び場形態, およびそれを実現するための整備要件について検討する。

【方法】既報(注)の郊外住宅地立地(京田辺市)の「雑創の森プレイスクール」(以下「雑創の森」と記す)に加え, 今回は福岡市中央区に立地する(財)プレイスクール協会運営の会員制「福岡プレイスクール」(以下「福岡」と記す)を調査対象とし, 第1報と同様の調査(会員小学生の活動観察調査, 面接調査, 母親対象質問紙調査およびプレイリーダーの面接調査)を行った。「福岡」では物づくりや自転車, 手芸などのクラブで毎週水・土の午後に活動。調査時点の会員数は45人。調査期間は1997年10~11月。

【結果】立地環境が異なる「雑創の森」と「福岡」では, 来所手段や居住圏域, 家族属性に違いがあった。自然環境の評価に違いがみられたが, 物づくりや野外での冒険遊び, 異年齢集団遊びなど日常できないような遊びについてはどちらも高く評価され, このような遊びを可能にするプレイリーダーの重要性が認識されていた。特に「福岡」では, 1997年に子どもを狙った犯罪が多発したため, 大人が見守る安全な遊び場を求める意見が多くみられた。

注) 梶木・瀬渡・平井, 日本家政学会第49回大会研究発表要旨集, p.245, 1997年